

企画展

とう ばん けい す え き 東播系須恵器の話



【莊園領主の館にて(想像)】 絵:山崎 敏昭 氏

令和7年4月19日〔土〕～6月22日〔日〕

かつて、三木の窯跡では都の寺院造営のため瓦を生産していました。

そのかわり日常雑器である東播系須恵器が生産されました。

本展では三木窯で発掘された東播系須恵器と瓦を展示します。

特別講演会「窯跡資料からみた平安京と三木窯」

〔日 時〕 令和7年5月25日(日) 13時30分～15時

〔講 師〕 森内秀造 氏(兵庫県立考古博物館 名誉学芸員)

〔会 場〕 三木市立みき歴史資料館 3階講座室

〔定 員〕 先着80名(無料、申込不要)



三木市立 みき歴史資料館



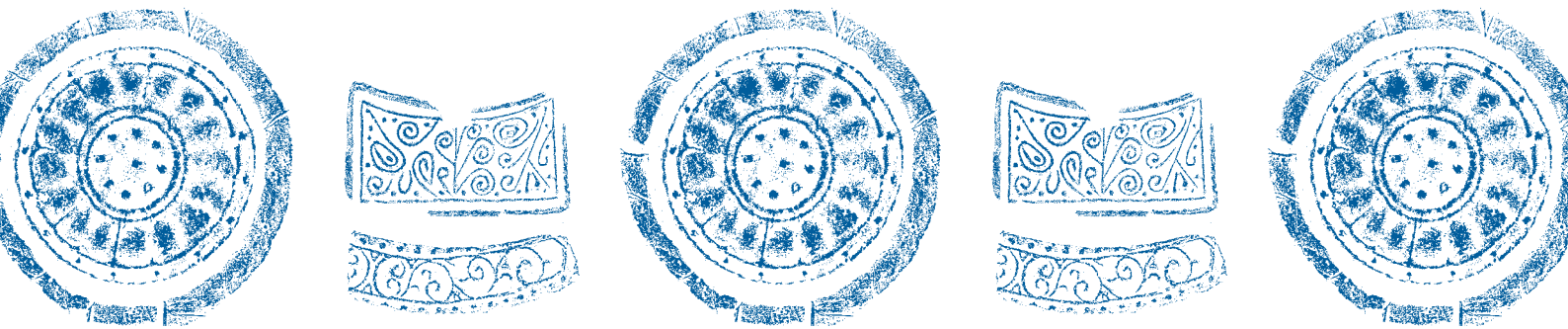
〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町4番5号 TEL.0794-82-5060

〔アクセス〕 神戸電鉄粟生線三木上の丸駅から徒歩5分

〔開館時間〕 9:00～17:00 (入館は16:30まで)

〔休 館 日〕 毎週月曜日、4月30日(水)、5月7日(水) ※5月5日(月・祝)は開館

入館
無料



とう ばん けい す え き

企画展

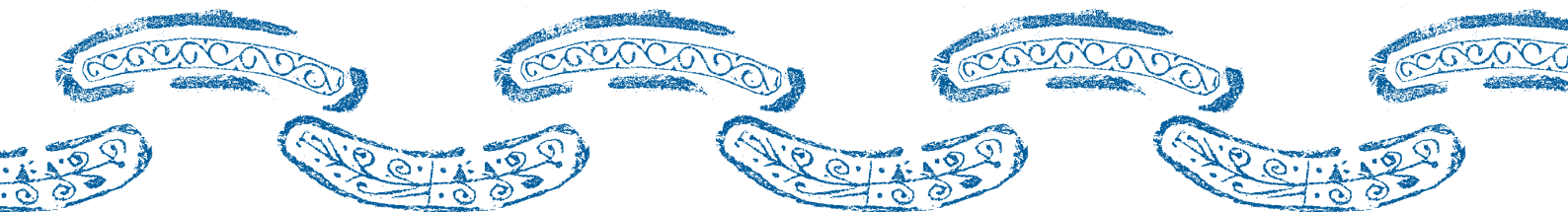
東播系須恵器の話をしよう

令和7年4月19日〔土〕～6月22日〔日〕

平安時代後期から鎌倉時代初頭にかけて、三木市久留美あたりに所在する窯跡関連遺跡からなる窯跡群（以下、三木窯）では、神戸市の神出窯、明石市の魚住窯などとともに、東播磨で生産された日常雑器である東播系須恵器が生産されました。

しかし、これらの窯は瓦を生産することを主目的とし、そのかわり東播系須恵器を生産する瓦陶兼業窯であったことはあまり知られていません。

そこで、本展では三木窯の発掘調査で出土した東播系須恵器と瓦のほか、窯業で繁栄した久留美荘中心部と推定される久留美遺跡出土資料を一堂に公開します。本展を通じて、三木市の古代と中世について新たなイメージを提示できたら幸甚です。



企画展関連イベント

ギャラリートーク「東播系須恵器の話をしよう」

〔日時〕 令和7年5月18日（日）13時30分～14時30分

〔講師〕 当館学芸員

〔会場〕 三木市立みき歴史資料館 2階企画展示室

〔定員〕 先着20名（無料、申込不要）